

やまと

広報

3月号
2011 No.214

特集

「そうだ、宮古崎へ行こう。」

もくじ

- 02-07 特集「そうだ、宮古崎へ行こう。」
- 08-13 ニュース：がんばろう日本！、ほか
- 14-14 お知らせ：タラソ利用券助成、ほか
- 15-16 連載：いきむんマンディ、ほか



特集 「そうだ、宮古崎へ行こう。」

アマミノクロウサギに代表される貴重な動植物とそれらを育む雄大な自然。シマウタや大島紬、郷土料理など独自の芸能文化を有する奄美大島。

近年、奄美大島に対する注目は高まり、テレビや雑誌に頻繁に登場するようになった。また、マスメディアの他にも、各自治体やフリーパー、個人のホームページ、ブログといった媒体においても様々な角度から奄美大島の魅力が紹介されている。

あやまる岬(奄美市笠利町)、金作原原生林(奄美市名瀬)、湯湾岳(大和村・宇検村)、マングローブ林(奄美市住用町)、ホノホシ海岸(瀬戸内町)、いずれも奄美大島を代表する観光地で、その雄大な自然は訪れる人を魅了してやまない。これら島の観光地はメディアやインターネットで紹介し尽くされたかの様に思われるが、実は貴重な価値を持ちながらもほとんど日の目を見ることのない場所がある。

そんな場所のひとつが大和村の宮古崎だ。ダイナミックな地形と特異な植生、様々な海洋資源など大きな可能性を秘めながら、アクセスの悪さやPR不足からメディアへの露出は極めて少ない。

今回、広報誌で特集することにより、少しでも多くの人に宮古崎の魅力を知ってほしい。そして、ぜひ実際に足を運んでほしい。きつと感動するだろう。そして改めてシマの懐の深さを再認識するはずだ。



遊歩道には200m毎に案内板が設置されていて心強い

宮古崎周辺の地図 (数字は次ページ写真番号)



- 最寄りの集落
大和村国直 (シャワー・トイレ・駐車場・喫茶店あり)
- 宮古崎までの道のり
国直集落から2kmの遊歩道・徒歩30分・車両通行止
- 宮古崎周辺の施設
展望台あり、水道・トイレなし
- 携行品
笹が深いので長ズボン着用が良い

宮古崎は奄美大島の中部、大和村と奄美市との境に位置し、嶺が東シナ海に突き出るリアス式海岸の岬だ。

海岸線は荒波に浸食された断崖が連なり、丘陵部は方言で「ササントウ」と呼ばれリュウキュウチクの草原が広がる（トウとうは方言で平らな丘陵部を意味する）。

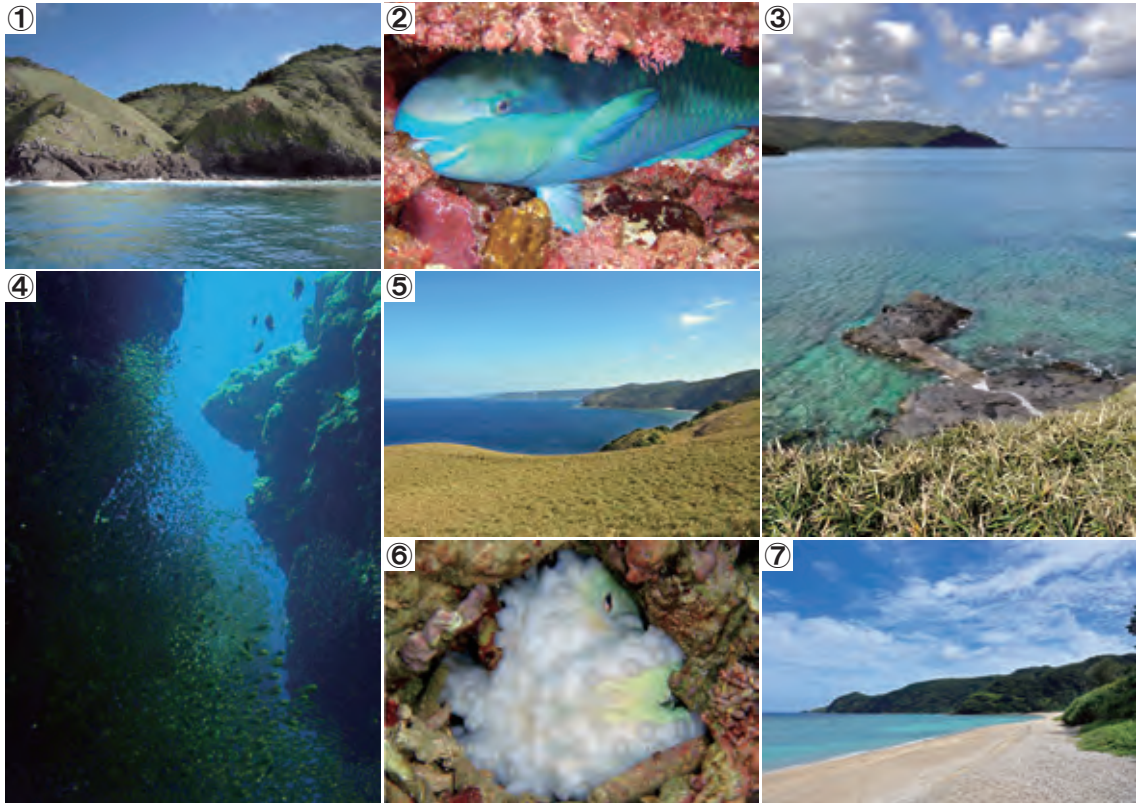
紺碧の東シナ海と濃緑の笹のコントラストが美しく、海に向こうに視線を向けると、武運崎〜摺子崎〜横当島〜大山崎〜浦内湾の眺望が広がる。

三方を海に囲まれ年間を通じて潮風が吹く風衝地帯のため、周辺の植物は矮小化して自生。シャリンバイやタイワンヤマツツジなどは地を這うように群落を形成し、春には純白や深紅の花を咲き散らす。また、岬一帯の優占種であるリュウキュウチクは、ススキやチガヤ等と比べ丈夫で腐食しにくいことから、茅葺き屋根の材料として重宝され村内外に刈り出されたという。

岬の周辺は奇岩の転がるヒジャ（海岸線）から静穏なイノー（礁池）、波の泡立つフカミ（外海）と変化に富んだ地形を成し、多種多様な生物が生息する海域が広がる。

宮古崎一帯はこの様な貴重で特色ある景観を呈していることから、昭和49年に奄美群島国定公園第2種特別地域として指定を受け、現在も引き続き保護されている。

奄美群島国定公園・宮古崎



①ウティルミズ（落ちる水）と呼ばれる沢が海に流れ落ちる場所。同様の地名は島内各地に見られるがどこも周辺は好漁場だ。②エラブチ（ブダイ）の中間は夜になると静穏域の岩礁の割れ目やテーブルサンゴの下で寝る。中には体を粘膜で覆って寝る種類もある。③ワキノス（脇ノ瀬）と呼ばれる離れ瀬だが現在はコンクリートで陸地とつながる。工事を施工した業者にちなんで「ダイワの栈橋」と呼ぶ者も多い。④ヤトウと呼ばれる櫛状に連なるリーフの割れ目。昼間でも薄暗く、小魚や根魚、イセエビなど甲殻類の住処となる。⑤東シナ海にデン崎、摺子崎、武運崎と岬が重なり、天気が良ければ十島村の横当島も眺望できる。⑥トホ（シマダコ）はアデクと呼ばれる決まった穴を住処とする。獲ってもしばらくすると別のタコが住み着くのでアデクは漁師の財産だ（夜間の睡眠中は白く変色する）。⑦宮古崎遊歩道の起点となる国直集落。海岸線には白い砂浜が広がり夏場は海水浴場として賑わう。

宮古崎周辺の漁場は豊かで、ヒジャ（海岸線）では主に女性達がアオサ等の海藻やトコブシなど貝類を採取する他、イノー（礁池）ではサザエやウニ、タコ、小魚、イセエビなど、潮が引くと様々な獲物を容易に獲ることが出来る。また、フカミ（外海）では漁師達がブダイやスジアラ等の高級魚を素潜りで突き、周辺に点在するソネ（魚礁）では一本釣りでホタテ類の根魚を狙う。人々は季節と目的にあわせ漁を営み、自然からの恵みを得ている。

また、宮古崎は漁民達の漁場のみならず、老若男女、幅広い住民がマリノレジャーを楽しむ一大行楽地でもあった。

昭和50年代の大和中小学校の遠足といえど中学生が宮古崎、小学生は崎ノ浜（途中の海岸）に行くのが定番だった（遊歩道が整備される以前は崖をよじ登るような行程だったと聞くと身のすくむ思いだ）。子どもたちは笹の斜面を段ボールに乗って滑り降りる「草スキー」が楽しみで、小学生の頃は宮古崎まで行ける中学生が羨ましかったのは懐かしい思い出だ。

村は貴重な景観を有する宮古崎を行楽地として活用しようと、昭和52年に駐車場や遊歩道、休憩所、トイレ、防護柵を設置し海浜公園として整備。旧名瀬市から比較的近いことから、宮古崎は遠足や釣り客、グラスボートによる海中鑑賞など村内外から多くの人で賑わった。

特集「そうだ、宮古崎へ行こう。」

宮古崎を真つ赤に染めろ！

第2回宮古崎つじウォーク（同実行委員会主催・大山綱治委員長）が3月20日に開催され、国直く宮古崎間のウォーキングとツジの植樹が行われた。

当日はあいにくの雨模様の中、村内外から約80名が参加。国直公民館を出発し、片道2kmの宮古崎を目指した。参加者は急勾配の階段に音を上げながらも、尾根から見える浦内湾の絶景に歓声をあげていた。

現地ではあらかじめ実行委員会が掘った穴にタイワンヤマツツジの苗木100本を植樹。肥料と水をやり、植樹者の銘板を設置した後、記念に全員で集合写真を撮影した。

宮古崎に自生するツツジはタイワンヤマツツジの変異種で、その厳しい自然条件から著しく矮小化。葉は丸みをおびて小さく、花は鮮やかな紅色で群れるように一斉に開花する。愛好家や地元の人たちは他のタイワンヤマツツジとは区別して、「宮古崎ツツジ」と呼ぶ。開花時期に対岸から宮古崎を望むと、岬全体が花卉で真つ赤に染まったという。

薩摩藩士、名越左源太の記した幕末の奄美大島民俗史「南島雑話」によると「国直村より根瀬部村の方半道計りの所へ都崎といへるあり。（中略）此都崎躑躅の名所数多き上に紅色他と異なるれり。」と記載され、宮古崎が古くからツツジの名所として知られていたことが読みとれる。





ツツジの花で真っ赤に染まる宮古崎（イメージ図）と宮古崎つつじウォークの参加者達

昭和52年以降、岬の公園整備と時期を同じくしてツツジの姿が徐々に消え始めた。

道路整備と折からのツツジブームにより、心ない人たちが山に分け入りツツジを株ごと持ち去って行ったのだ。自生のツツジは絶滅状態となり、山には無惨な盗掘跡の穴だけが残った。

あれから数十年・・・

「人の手によって壊された自然は、人の手によって再生できる」を合い言葉に、国直青壮年団を中心とする有志によって宮古崎ツツジを復活させる活動が始まった。園芸作業には不慣れな者の集まりであったが、数年間試行錯誤を重ねた後、ついに苗木の定量育成に成功。平成22年には植樹と併せたウォーキング大会の開催にこぎ着けた。

前記のとおり大会は今年も開催され、来年以降の植樹用に準備した苗木も元気に成長しているとのこと。会の活動は着実に歩みつつある。

残念ながら初年に植樹した苗木が盗掘の被害を受けていたが、会のメンバーは嘆くことはない。「先の長い活動は始まったばかり。10本盗まれたら20本植えればいい」と笑い飛ばす。

強い信念を持ちながらも、気負うことなく自らイベントを楽しもうとする彼らの姿勢は常にポジティブだ。

いつの日か宮古崎がツツジの花で真っ赤に染まる日が来ることを願わずにはいられない。



大和浜から宮古崎を望む

特集「そうだ、宮古崎へ行こう。」

パワースポット・宮古崎

奄美大島の中で、東シナ海に面した地域を「アラバ」と呼ぶことがある。北西方向から吹く冬場の季節風が厳しく、海岸線に荒波が打ちつけるからだ。大和村の集落は全て東シナ海側の海岸線に点在し、他のアラバ同様に冬は季節風に曝され海は荒れ狂う。

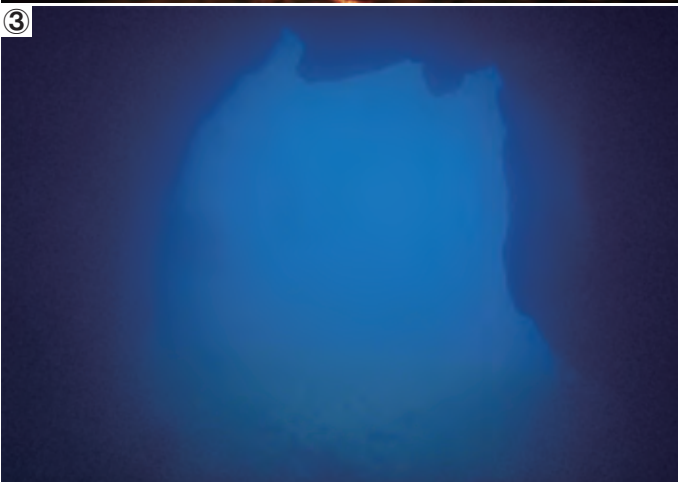
しかし、海路を閉ざされ出漁さえままならない村西部のアラバと比べ、宮古崎に面する浦内湾は若干事情が異なる。湾頭の集落はかろうじて静穏に保たれ、風向きによっては海産物を得ることもできる。理由は湾の入り口に横たわる宮古崎が防波堤となつて波を遮るからだ。

古の時代、自給自足で暮らす先人達にとつて集落を守り、豊かな恵みをもたらす宮古崎の存在は大きく、感謝の念を持ったことだろう。

「畏敬」と「感謝」。自然と向き合う時、常に立ち戻る言葉だ。

島を離れて暮らし故郷に思いをはせる時、海沿いの集落で育った私達大和村民の脳裡に浮かぶのは、海岸線の風景ではないだろうか。

大金久トウルス岩や戸円テブラ岩、今里立神のシルエツトを思うと多くの人が望郷の念に駆られたのではないかと。現代社会においても、浦内の人々にとつて宮古崎は故郷のシンボルであり誇りであり続ける。



- ①周辺には植林されたリュウキュウマツの林が広がる
- ②漁場に向かう漁船から撮影した宮古崎の日の出
- ③アーチ状のトンネルが外海に通じる離れ瀬の海底
- ④草原には人間に踏み固められて出来た小道が縦横に走る

宮古崎の名前の由来は、岬に本土（都）の人を埋葬したことによるという説があり、古文書に「都崎」と記載されていることや、現在の土地の登記地目が墓地であることから、「宮古崎↓都人の墓地」説はある程度信頼できる。

「大和浜は遣唐使の中継基地として大和人（本土人）が多く滞在したことからその名が付いた」という言い伝えや、島内各地に残る平家落人伝説と関連して想像を膨らませると、島外との交易や文化の交流など古のロマンに思いがはせる。

また、島の人々は海の彼方に「ネリヤカナヤ」という神々の住む樂園があり、海を越えて島に五穀豊穡をもたらすと信じてきた。

宮古崎に立つと、正にネリヤカナヤから訪れた神が降り立つ特別な場所の様な感覚を覚えることがある（似たような感覚は湯湾岳頂上でもある）。

330度海に囲まれた空間と、うねる大地は、波や風、都人の霊によって周囲のエネルギーや気を集めるスピリチュアルな（霊的な）場所に思えてならない。

ぜひ、宮古崎を訪れ、笹の草原に立ち周辺から沸き立つエネルギーを感じてほしい。

もしかしたらあなたを勇気づけるパワー（元気の源）を貰うことが出来るかもしれない。



宮古崎の先端から浦内湾を望む

がんばろう日本！

3月11日、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9の地震が発生し、東北、関東地方に甚大な被害をもたらしました。

このたびの東日本大震災においてお亡くなりになられた方々に対して心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

地震発生から1カ月が経過いたしました。未だに多くの方が避難所での生活を余儀なくされ、避難の長期化も予想されています。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年の豪雨災害の際には全国各地から本村へ温かいお言葉と共に義援金や支援物資が続々と届けられ、復旧への道のりを確かなものとした次第です。

被災地では人的支援、生活物資、義援金など様々な形での支援を必要としており、次は私達が被災地へ勇気を送る番です。

大和村では村当局を初め、各集落、議会、職員、個人からお預かりした義援金3,552,787円を日本赤十字社鹿児島県支部を通じて被災地へ届けるとともに、これまで「大和」つながりで交流のある宮城県大和町へ580,000円をお届けいたしました。

今後も被災地の情報収集に努め、可能な限りの支援を行いたいと考えています。

なお、引き続き役場庁舎ロビーに募金箱を設置し義援金を募集していますので、村民の皆様の温かいご支援をお願いいたします。

日本はひとつ。豪雨災害時で学んだ「結い」の心で大和村から被災地にエールを送りましょう。

大和村長 伊集院 幼

大和村がお預かりした義援金

国直集落	50,000 円
湯湾釜集落	57,000 円
津名久集落	93,064 円
思勝集落	60,000 円
大和浜集落	68,425 円
大棚集落	304,831 円
大金久集落	35,151 円
戸円集落	270,000 円
名音集落	127,500 円
志戸勘集落	14,000 円
今里集落	100,000 円
民生委員	10,000 円
役場募金箱	48,816 円
役場職員	314,000 円
大和村議会	80,000 円
大和村	2,500,000 円
合計	4,132,787 円

なお、上記以外にも多くの団体や個人が直接募金を行っています。



「今私達が出来ることがをしよう。」



大和中学校



大柵中学校



戸円中学校



名音中学校



今里中学校



中学校閉校式

「やようなら私の母校。思い出の中でまた会いましょう。」

村内五つの中学校（戸円中学校は休校中）を統合して新設される「大和村立大和中学校」の開校を4月に控え、2月21日の戸円校を皮切りに各中学校で閉校式が行われた。

大和村の中学校制度は、昭和23年に大和中学校を設立。大柵、戸円、名音、今里をそれぞれ分校として設置し発足した。

閉校式には学校や村関係者の他、卒業生や歴代の校長や教職員、地域住民ら多くが駆けつけ消えゆく母校に別れを告げた。

会場には学校の歴史を振り返る写真や資料が展示され、参加者は感慨深げに見入っていた。

式は村長告辞の後、教育長、村議会議長、学校長あいさつが行われ、今里校では生徒代表の宮田希美さんが別れの言葉で、「さよなら今里中学校。思い出の中で会いましょう」と述べると会場からすすり泣く声が聞こえる場面も。最後は全員で高らかに校歌を合唱し式を閉じた。

地域の人々は、統合による生徒数の増加や専門教員の配置など生徒の教育環境の向上に理解を示しつつも、「子どもたちの声が少なくなるのは寂しく、運動会などの学校行事に不安もある」との声も聞かれた。

各学校は小学単独校となり児童数や教職員数も減少するが、地域の人々が今まで以上に学校を盛り上げ、希望の灯火を燃やし続けてほしい。

旬のタンカンをPR

神奈川大和市でタンカン祭

伊集院村長を隊長とする販売部隊が
2月18・19日の二日間、神奈川県

大和市にタンカンを持ち込み宣伝・販売キャンペーンを行った。

今回のキャンペーンは共販のみに頼らない独自の販売ルートを確認しようと村長自ら出向いたもので、村議会議員ら7名も所管事務の一環として同行。

大和市は神奈川県の中央部に位置する人口22万人の大都市で、都心や横浜市に近く交通の利便性も良いことからベトナムタウンとして栄える「巨大市場」。大和村とは「大和」つながりで交流が続く。

18日には市役所を表敬訪問し、ロビーで市民や職員にタンカンを振る舞った。初めて口にする人も多かったが「甘くて美味しい」と好評を博した。

翌19日には数万人の人出で賑わう大和駅前の古民具骨董市にあわせ「たんかん祭」を開催。

梅畑茂和議員による島唄演奏や大和村の写真をパネル展示するなど、タンカンのみならず大和村の魅力を紹介。多くの人が足を止めて見学、試食しタンカンを購入していった。



販売4時間で持ち込んだ2トンのタンカンを完売。さらには翌日から役場に注文や問い合わせの電話が殺到したとのことで、参加者全員が今回のキャンペーンに手応えを感じた。

また、伊集院村長も大木哲大和市長と、今後も自治体間で継続的な人・物の交流を行うことを確認し、固い握手を交わした。

まほろばウォークでリフレッシュ

桜咲くフォレストポリスを散策

奄美フォレストポリス一帯で1月30日、「第9回まほろば大和ウォーキング大会」(大和村、村教育委員会主催)が開催され、村内外から400人が参加。満開間近のヒカンザクラ並木を眺めながらウォーキングを楽しんだ。

開会式では大会実行委員長の伊集院村長が「フォレストポリスの自然を堪能しながら、それぞれのペースで歩いて健康づくりに励んでください」とあいさつ。

フォレストポリス管理棟前を起終点に、4kmのファミリーコースと6kmの桜並木コースが設定され午前10時に一斉にスタート。

川のせせらぎや鳥のさえずりの中を散策しながら、鮮やかなピンク色の桜の下では立ち止まってデジタルカメラや携帯電話で撮影する姿も見られた。

また、給水ポイントでは温かいお茶や黒糖などのお菓子が用意され、参加者同士談笑しながらゴールを目指した。

会場では保健師による健康相談や地元農家の新鮮な農産物の即売



コーナーが設けられたほか、お楽しみ抽選会や豚汁やおにぎりの昼食が振る舞われ、参加者は陽春のフォレストポリスを満喫した。

年々参加者が増え盛り上がる同ウォーキング大会は、奄美大島に春を告げるイベントとして定着しつつある。ぜひ、来年参加してみては。

タンカンと新鮮野菜が大人気

むっちもくれフェスタ賑わう

農 林水産物から日用品まで幅広い商品フリーマーケット形式で販売する「第3回むっちもくれフェスタ」(同実行委員会主催・重昭代会長)が2月27日に大和村体育民館で開催された。

旬のタンカンをメインにとれたて野菜が並べられ、村内外から多くの人で賑わった。

陳列棚には市場より安価で持ち込まれたタンカンを初め、ホウレンソウやチンゲンサイ等の葉物野菜や切り干し大根、生シイタケ、野菜苗、花卉類、観葉植物、ボカシ肥料さらにはアオサやマガキガイといった海産物が並べられ、中には早々と完売したブースもあった。

会場ではコーヒーや「国直なんだーぎー(黒糖ドーナッツ)」、大学芋、ヤキソバ等も販売され、購入した人たちは休憩コーナーで味を楽しみながらくつろいだ様子だった。



同フェスタは人や物の交流で村を活性化しようと昨年6月から定期的に開催し今回が3回目。重会長によると、次回はスモモの収穫に併せて5月末か6月に開催予定とのこと。

市場の名前となった「むっちもくれ」とは「持つて行きなさい」の意味と「持つて来なさい」の意味をあわせ持つ方言だ。市場で商品を購入するのももちろんお店を出店してフェスタに参加するのも良いだろう。

市場の名前となった「むっちもくれ」とは「持つて行きなさい」の意味と「持つて来なさい」の意味をあわせ持つ方言だ。市場で商品を購入するのももちろんお店を出店してフェスタに参加するのも良いだろう。



夕日の見える公園が完成

奄美サンセットラインを整備

鹿 児島県が大棚・大金久の県道(主要地方道名瀬瀬戸内線)沿いに整備を進める公園がこのほど完成した。

公園は旧県道敷を活用したもので、いずれも東シナ海が眺望できる敷地に太陽光発電による照明や、ベンチ、テーブル、東屋等の休憩施設を整備した。集落から近く景観も良いので、ドライブや地元住民の利用が見込まれる。

鹿児島県は奄美大島西海岸を「奄美サンセットライン」と位置付け観光地づくりを行っている。国道58号線の反

対側で、どちらかというところ「裏奄美」的な東シナ海沿岸だが、夕日を活用し一体的な整備を進める。

村も連動して大棚の公園近くに観光案内板を設置したほか、大棚壮年団が植栽を整備するなど県と一体となった観光地づくりを推進する。

また、毛陣地区に隣接する旧果樹選果場は農林水産物の加工・販売施設としてリニューアル中(名称…大和まほろば館)。人や物の流れが東シナ海側やフォレストポリスに向かえば観光と農林水産業の相乗効果が期待できるのではないだろうか。



主要地方道名瀬瀬戸内線・大金久地区



主要地方道名瀬瀬戸内線・大棚地区

読書で豊かな想像力を

森山茂知さん図書カードを贈呈

村 内の児童生徒157名全員に一人当たり1,000円の図書カード

がプレゼントされ、2月9日に役場村長室で贈呈式が行われた。

図書カードの送り主は、本村今里出身で国分電機株式会社社長の森山茂知さん（国直在住・76歳）。

森山会長は1月に行われた大和村PTA研究大会の講師として招かれ講演を行った際、「親子読書の充実について」という今里PTAの発表を聞いたことから読書カードのプレゼントを思い立ったという。

会長は、「私が小さい頃は周りに本が少なくとにかく活字に飢えていた。今は本が溢れているのに読書離れが進んでいるのでは」と指摘するとともに、「現代はメールなど短文の情報が飛び交うが、読書を重ねることにより豊かな想像力を身につけ表現力を高めてほしい」と話す。恐らくご本人がビジネスの世界で常に感じていることではないか。

生徒を代表して贈呈を受けた中



あかりさん（大和中・2年）は「問題集や副読本を買うなど大事に使いたい」と話した。

折からのテレビCMでは「読めば、あなたの『知層』になる。」とのコピーが頻繁に放送されている。森山会長の願いのとおり、若いうちに1冊でも多く本を読んで知識の層を積み重ねてほしい。

小型ポンプ車で防災力を強化

損保協会が消防自動車を寄贈

社 団法人日本損害保険協会（鈴木久仁会長）から大和村消防団（伊村光志団長）へ小型動力ポンプ付軽消防自動車

が寄贈され、1月24日に大和村中央公民館において寄贈式が行われた。

同協会は全国各地の防災力強化を図るため60年前から消防自動車の寄贈を行っており、今年度は全国28自治体に寄贈したとのこと。これまでに奄美群島内の自治体へ12台の消防車両を寄贈している。

寄贈式では伊集院村長が「集落内に狭い道路が多い村の交通事情を考えると、機動力のある軽消防自動車の配備は大変有効でありがたい。心温まる配慮に感謝します。」と謝辞を述べた。

車両は伊村団長により「国直号」と命名され、大和村消防団第1分団（国直・湯湾釜）へ配備が決定した。

寄贈式終了後には第1分団により寄贈された車両の動力ポンプを使用して小型ポンプ操作を実演。

公民館前に放水アーチが架かった。



車両配備の決まった第1分団の浜井副分団長によると「新型のポンプにはこれまでにはない機能が備わり心強い。操作方法を熟知し、訓練を重ねて大事に使用したい」と語った。

平成20年以降火災のない本村だが、消防団員は寄贈資機材を十分に活用し、これからも村民の生命と財産を守ってほしい。

ご支援ありがとうございました

昨年10月20日の豪雨災害被災者へ全国各地から温かい励ましのお言葉と多数の支援物資や義援金をいただいております。心からお礼申し上げます。

3月末日現在、65件の支援物資と435件、23,796,767円の義援金をお預かりしております。

豪雨災害義援金配分委員会の決定に基づき次のおり被災者及び自主防災組織等に配分するとともに、東日本大震災の被災者へ義援金として送らせていただきました。

なお、これまで広報誌においてご報告した以降に義援金をいただいた方のご芳名を下記のとおり掲載いたします。

- 全半壊世帯 16件 465万円
- 床上浸水世帯 14件 280万円
- 床下浸水世帯 108世帯 324万円
- 自主防災組織 11組織 375万円
- 被災事業所 8事業所 160万円
- 東日本大震災 2カ所 250万円

ご芳名 (敬称略)	ご住所	ご芳名 (敬称略)	ご住所	ご芳名 (敬称略)	ご住所
島津 悦子	東京都	津島 由紀子	和歌山県	大和村区長会	大和村
武田 直行	東京都	寺本 孝	兵庫県	中山 隆史	
藤代 國忠	東京都	穂積 信夫	広島県	玉井 初男	
奥田 忠義	神奈川県	森 ヒチエ	香川県	玉井 勝	
花田 悦孝	千葉県	宮本 聡子	福岡県	名橋 典子	
市原市町会長連合会	千葉県	坂田史帆里	長崎県	古賀 尚子	
佐藤 祐介	埼玉県	株式会社地域科学研究所	大分県	栄 リサ	
根岸 攝子	群馬県	得丸 義晃	大分県	大國 やすよ	
大瀧 黎子	群馬県	鹿児島県生活協同組合連合会	鹿児島市	下松 トシエ	
佐藤 達哉	福井県	日本赤十字社鹿児島支部	鹿児島市	下松 正吾	
野村 修平	新潟県	鹿児島県PTA連合会	鹿児島市	下松 孝太	
酒巻 裕一	新潟県	中園 梅義	鹿児島市	岩下 りか	
堀田 俊男	愛知県	学校法人鹿児島敬愛学園聖幼稚園	指宿市	天野 玉雄	
岩松 芳文	愛知県	牛根麓簡易郵便局	垂水市	天野 代津江	
晟心塾愛知総本部	愛知県	吉元 正博	鹿屋市	天野 奈緒也	
村山 成俊	三重県	鹿児島県薬剤師会奄美支部	奄美市	天野 梓	
坂口 純子	大阪府	(財)奄美広域中小企業勤労者福祉サービスセンター	奄美市	渡辺 由美子	
堀川 喜仔	大阪府	向井 章	奄美市	東 喜美子	
亀澤 めぐみ	京都府	瀬戸内町共同募金支会	瀬戸内町	南林 秀和	
木村 隆志	京都府	大和村赤十字奉仕団	大和村	青木 瑞穂	
渡邊 洋之	京都府	河内 淑恵	大和村	水野 恭子	
藤原 国子	奈良県	今里区長会	大和村	九之池 佑紀	
阿部 ひろみ	奈良県	戸円集落	大和村	藤川 亜由美	

タラソ利用料を半額助成します

タラソテラピーは、生活習慣病の改善や健康づくりに大変効果があります。今回、下記条件でタラソ利用料を助成します。この機会にぜひお申し込み下さい。

■対象者 大和村在住の40歳以上の方（先着30名様・但し希望者多数の場合は、22年度半額助成を利用していない方を優先します）

■利用期間 平成23年6月から平成24年3月

■利用頻度 利用期間中、週1回以上継続する意思のある方

■交通手段 自家用車またはタラソ専用バス（第1・3・4木曜と第2日曜に運行・無料）

■利用施設 タラソ奄美の竜宮

■助成金額 タラソ奄美の竜宮で規定されている月会員またはチャレンジ会員利用料の半額を助成します

■申し込み締切 5月12日（木）

大和村地域包括支援センターまで

TEL（0997）57-2218



市場代行便運行中！

農産物を農家に代わって市場へ出荷



大和村では農産物の出荷作業の軽減と小口出荷による総量拡大のため、名瀬中央青果への市場代行便（共同集出荷）の運行を行っています。

これまででは生産量が少ない等の理由のために無人販売所や自家消費にしていた商品等がありましたら、ぜひ市場代行便をご利用下さい。

キャベツ1個からお預かりいたしますので、少量の野菜でも遠慮せずに出荷してください。

集出荷日は東部地区（国直〜大和浜）が火曜日と金曜日、西部地区（大棚から今里）が木曜日となっています。

集落公民館に時刻表を掲示していますので、出発時間を確認のうえ、各集落公民館へお持ち下さい。

搬送者があなたに変わって市場へ出荷いたします。

行き先	集荷所
名瀬中央青果	各集落公民館

毎週火・金曜日		毎週木曜日	
8:30	大和浜	6:00	寺里
8:45	恩 藤	6:10	志戸館
7:00	津名久	6:25	名 宮
7:15	湯清童	6:40	戸 円
7:30	国 直	7:00	大金久
		7:20	大 棚
8:00	中央青果	8:00	中央青果

小口出荷大歓迎！
キャベツ1個からお預かりいたします
問い合わせ先 大和村地域包括支援センター
TEL:0997-57-2111 FAX:0997-57-2151

福元で 使えます

本村の福元地区はほぼ全域が携帯電話の不感地域で、農家を初め多くの利用者が不便を強いられました。

住民の切実な要望を受け、村としても最重要懸案として要望して参りましたが、この程NTTドコモにより深山塔地区に携帯電話の基地局が整備されました。

通話エリアはフォレストポリス全域と村道マテリア線、戸円福元線、福元湯湾線のほぼ全域をカバーするもの。バンガローやグラウンドゴルフ場に訪れる利用客に大変好評で、農家のみなさんも「これで不安なく農作業に専念できる」と安心した様子。

不感地域の解消により、フォレストポリス利用者の増加と農家の利便性の向上が図られ、福元地区の経済の活性化が期待されます。



お便りをお待ちしています

鹿児島県広報協会（会長伊東祐一郎知事）主催による鹿児島県広報コンクール・広報誌部門において、本村の「広報やまと」が入選の栄を賜りました。

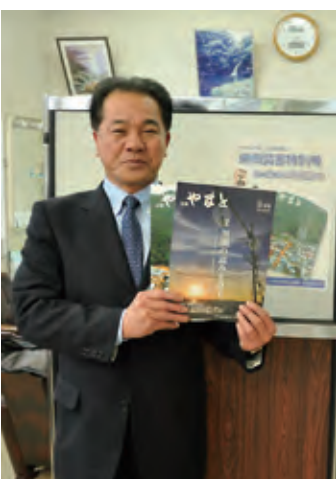
ありがたい栄誉を村民のみなさまにご報告するとともに、日ごろからの広報活動へのご協力に感謝申し上げます。

広報やまとは、分かりやすく村の動きを紹介するため、今年度から内容を一部変更してお届けしています。

行政からの一方的な告知に留まらず、双方向に情報を発信する紙面作りに努めて参ります。

村政への要望や広報誌への意見、今後特集してほしい記事など皆様のお便りをお待ちしています。紙面にてご紹介いたしますので、住所・氏名をご記入のうえ紙面末尾に記載した住所（アドレス）まで郵送またはメール、ファックスにてお送りください。

今後とも、村民と会話する広報誌づくりにご協力願います。



こせきの窓

人口 1,764人 (△24)
 男 834人 (△10)
 女 930人 (△14)
 世帯 900戸 (△1)

3月1日現在
 (前年同月比)

カメラを向けると泣き出してしまっ
 たが、お姉さんが上手にあやすと満面
 の笑顔に。ひなた姉ちゃんが大好きな
 ゆうま君です。



久保勇真さん
 保護者・久保のぶみさん (津名久)



満1歳おめでとう

ご結婚おめでとう

永島 明広さん (大棚)
 松島美津子さん (奄美市)

お誕生おめでとう

森 更紗さん (保護者・森亮)

お悔やみ申し上げます

関 實時様 (93歳)
 安積 光子様 (86歳)
 郁島 チヨ様 (93歳)
 松村 純二様 (65歳)
 徳 ハル様 (87歳)
 井ノ上儀親様 (83歳)

香典返し (社会福祉協議会へ)

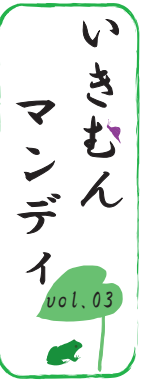
平 幸子様 (故関實時様)
 安積 秀二様 (故安積光子様)
 郁島 敏則様 (故郁島チヨ様)
 徳 恒二様 (故徳ハル様)

ふるさと納税ありがとうございます

奥田 義光様 (千葉県)
 岩田 政江様 (神奈川県)

広報誌謝礼ありがとうございます

山田 淳子様 (東京都)
 川畑 五二様 (愛知県)
 奥田 忠義様 (神奈川県)



パトロール実施中!

希少な野生生物を盗掘(採)する行為が後
 を絶ちません。奄美には世界中でもここに
 かない希少な野生生物が多く生育・生息し
 ています。しかし、一部の愛好家や販売目的
 等によって盗掘(採)され、多くの野生生物
 が絶滅の危機に瀕しています。

コゴメキノエランの盗掘(採)



盗掘(採)後 2010/04/18



盗掘(採)前 2009/12/27

コゴメキノエラン



絶滅危惧種ⅠA類、国内希少野生動植物種に指定さ
 れ採取等は禁止。奄美大島が北限のラン科植物。

大和村自然保護推進員の主な活動のひとつとして、定期的にパトロールを実施し、盗掘(採)防止に努めています。残念ながら盗掘(採)された形跡をたびたび確認しています。

大和村では、「野生生物保護条例」を施行し、保護区である奄美フォレストポリス内の野生生物の捕獲、採取・採集は一切禁止されています。また、保護区内に限らず、村内全域で希少野生生物の捕獲、採取・採集は制限されています。

今後さらにパトロールを強化し、盗掘(採)防止に努めてまいります。私たち一人一人がマナーを守り、奄美の宝が後世まで引き継がれるよう、地域のみなさまのご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

自然保護推進員

